

令和 4 年度第 1 回神戸市歯科口腔保健推進懇話会 議事要旨

1. 日 時：令和 4 年 8 月 4 日（木）13:30 ～ 15:10
2. 場 所：三宮研修センター 8 階 805 号室（WEB 併用）
3. 参加者：天野会長（現地）  
 （現地）：足立委員、高橋委員、田中委員、田守委員、土居委員、西尾委員、百瀬委員（50 音順）  
 （WEB）：堀本委員、安田委員（50 音順）  
 （代理）：河内委員代理、松木委員代理（50 音順）

4. 内 容

議題 1 「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第 2 次）」の取り組み状況について

議題 2 オーラルフレイル対策事業について

議題 3 小学校でのフッ化物モデル事業について

事務局より、下記資料について説明

資料 1 令和 3 年度歯科口腔保健に関する施策の実施状況報告

資料 2 オーラルフレイル対策事業について

資料 3 小学校でのフッ化物モデル事業について

○フッ化物応用について

委員：7 月 20 日検討会でフッ化物洗口へのオミクロン株の影響について質問があり、感染対策については、職員向け研修会にて指導しているとのコメントがあった。  
 事務局：小学校でのモデル実施については、フッ化物洗口・塗布を各 2 校ずつモデル校として選び、洗口は令和 3 年 11 月から実施、塗布は令和 4 年 9 月に実施する準備をすすめている。

○オーラルフレイル予防について

委員代理：兵庫県栄養士会では、「フレイル予防レシピ集」を発行して啓発している。たんぱく質をよく摂取すること、メニューの紹介に加え、フレイル予防 3 ケ条の中で「しっかりかめるお口をつくる」と口腔機能をアピールしている。フレイル教室では、かめる食品の他人との比較による気づきをするなど、歯科衛生士と協力している。

委員代理：「健康寿命を伸ばそう」という全国老人クラブ連合会の冊子では、フレイル予防を PR している。また垂水区内の老人会として「健幸プログラム」を 3 回実施予定。8 月 18 日に第 1 回目口腔のことを講演予定で、2 回目は運動について、3 回目は栄養について予定。

事務局：資料 1 の P. 21 に「チャレンジ！KOBE 健幸プログラム」を記載している。

委員代理：毎月の歯科検診に行くなどの意識付けが進みつつある。

議題 4 「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第 2 次）」の次期計画策定について

議題 5 歯科口腔保健推進関連会議等スケジュール（予定）

事務局より、下記資料について説明

資料4-1 こうべ歯と口の健康づくりプランの現状および国の目標値について

資料4-2 (仮称) 「こうべ歯と口の健康づくりプラン (第3次)」骨子案

資料5 令和4年度歯科口腔保健推進関連会議等スケジュール (予定)

事務局：現在のプランは60ページ超の冊子だが、次期プランはA4サイズ8ページにまとめる予定で、策定作業よりも中身を濃くすることに重点を置きたいと思っている。

本日は骨子案の紹介で、重点項目は、学齢期・妊婦でも増加傾向にある歯周炎、オーラルフレイル、健康格差の3項目。現計画通りライフステージ毎、分野別の施策を考えている。

今後、検討会また本日の懇話会での意見を集約して、秋ごろに2回目の検討会、その後懇話会を開催してプラン案を披露する予定。年内にはパブリックコメントを行い、その結果を3回目の検討会・懇話会に諮り、年度内に次期プラン完成としたい。

## ○歯周病と全身の健康

### 会長により、「歯周病と全身疾患の関係」について講演

会長：歯周病はサイレントディゼーズといわれ、自覚症状がなく、気づいたら歯が抜ける。歯周病は、ギネスブックに載る人類史上最大の感染症。歯周病の原因は、磨き残しによるプラーク（歯垢）。プラークが歯石になり、歯ブラシで取れなくなる。プラークによる炎症で、歯周ポケットができ、骨が溶け、歯がぐらつく。歯周病により悪化する全身疾患は100以上ある。なぜ歯周病が全身の病気に関係するのかは、歯周病（慢性炎症）が起これば、サイトカイン（炎症性物質）が出ることで、糖尿病、動脈硬化、アルツハイマー、がんなどが悪化する。歯周病と因果関係が明確な疾病として

- ・糖尿病：Ⅱ型糖尿病は歯周病の治療で改善する可能性がある
  - \*糖尿病診療ガイドライン2019の根拠を紹介
- ・コロナ肺炎の重症化：死亡リスク7.51倍、人工呼吸器装着リスク6.24倍、入院リスク4.72倍

歯周病と全身疾患の関係は医師会では認識されているか。

委員：いろんなところで聞いているが、まだ十分に浸透していない。機会があれば広めていきたい。

## ○若年者の課題

委員：7月20日の検討会でも話題となった、「学齢期のう蝕は改善されているのに、歯周病が増えている」のは、ブラッシングのスキルができていないから、中学・高校・大学・壮年期に歯周病が蔓延している。

会長：口を開けたままの子どもたちが増えており、口内が乾燥し唾液の抗菌作用が低下する。さらに唾液の減少により味覚障害が発生することで、塩分の取りすぎなど濃い味付けを好むようだ。ロウソクを吹き消せない、口笛を吹けない子供たちが多くなっている。次は若年性のフレイルが問題になってくると思っている。

## ○歯科健診

委員：行政からの機会があれば歯科健診を受けるが、それがなければ仕事も忙しいし、コロナもあり、歯科に行かないと思う。どのように啓発していくかだと思う。区によっても受診率に差があり、次期プランの施策に期待する。案内封筒の「無料でこのチェックを受けることができるのは今回限りです」と記載するのは良いアイデアだ。

委員：次期プランではさらに目立つアイデアが必要。

6月に決定された政府の「骨太の方針 2022」の国民皆歯科検診は3～5年かかるようだ。

会長：歯科医師が診る歯科健診ではなく、唾液検査で歯周病の陽性／陰性の判定をするようになるようだ。

## ○歯周病と糖尿病

委員：自分は徳島大学で糖尿病認定歯科衛生士を取得している。その頃は糖尿病に関する歯周病治療の推奨度はBだったが、今回Aとなっている。

会長：相関関係が明確なのは、現時点で糖尿病だけで、歯周病を改善することで糖尿病の投薬の種類も減らせ、負担軽減につながる。

## 報告 1. 訪問口腔ケア実施状況

## 報告 2. 口腔がん検診事業実施状況

### 委員より、別紙1「口腔がんについて」報告

#### ○口腔がん

委員：口腔がんは他のがんと比べ少なく、希少がんと言われる。口腔がんの6割は舌がん。

増加は高齢化が主な要因であるが、最近若年層でも発症するケースがある。

欧米に比べ日本の発症率・死亡率が高い。1980年以降、先進国に比べ日本のみ口腔がんによる死亡者数が増加している。

アメリカでは歯科医師会のキャンペーンが効果があった。ADA（アメリカ歯科医師会）の雑誌には、口腔がんのリスクとしてタバコ・アルコールが原因で、他にHPVなどが挙げられている。まず歯科医院で診て口腔がんを早期発見することが大切。かかりつけ歯科医は歯の治療だけではない、口の粘膜を診ているとの紹介記事。

他に入れ歯の不具合による傷から発症することもある。他のがんに比べ、目で見ることができるのがメリット。

日本歯科医師会でも個別健診をすすめており、神戸市では拠点方式による定点健診を行っている。将来的にはアメリカのような歯科医院による口腔がん検診が望ましい。

会長：タレントの舌がんのケースで一時的に関心が高くなったが、日本は遅れている。アメリカでは健康保険会社が歯科の定期検診を条件としているケースもあり。初期の口内炎から口腔がんに進むこともあるが、口内炎のまま放置している。

神戸市では月4回定期的に実施しているのは、他に例がないのでは。

委員：他都市では口腔がんを定例的にしていない。

委員：口腔がんの死亡率が高いのは、大阪大学口腔外科の教授によると、乳がんはステージⅠ～Ⅱで早期に発見されるが、口腔がんは発見時にはステージが進行している（ステージⅣ）。希少がんは集団検診のメリットはない。個別と集団検診の両方行い、神戸市が口腔がん対策をリードして行ければと思います。

会長：口腔がんを切り取ると、話す・食べる機能が落ち、顔貌も変わってしまう。

### ○訪問歯科診療・訪問口腔ケア実施状況

委員より、資料6 訪問歯科診療・口腔ケア事業実施状況

資料7 口腔がん検診事業実施状況 について報告

委員：受診される人は口腔ケアに前向きである。訪問口腔ケアの区の偏りや、受診しない潜在患者の掘り起こしが今後の課題。

### ○フレイル、健康とくらしのアンケート

委員：口腔疾患が全身疾患に反映されるように、全身疾患も口腔疾患に反映する。壮年期の肥満は脂肪組織の慢性炎症に起因するもので、歯周病の炎症性サイトカインによる慢性炎症とリンクしている。

65歳のオーラルフレイルが80%と高い数値に驚く。65歳の健診ではサルコペニア（筋肉の減少症）が3%であるのに対し、オーラルフレイルは先に出ている。

2018年に神戸市民に「健康とくらしに関するアンケート調査」を実施した結果、自分の歯の本数は自己申告ではあるが、歯が減るリスクは、年齢とともに上がり、男女ともに結婚していない方が、また生活保護は歯が減るリスクが高い。また、生活背景として男性特有に喫煙・朝食欠食者の場合、歯が減るリスクが高い。

歯の治療は歯科の先生に任せて、我々（医師）は、生活習慣の面からサポートすることで、全身の健康につなげたい。

### 報告3. その他情報交換

委員：より多くの歯科衛生士の兵庫県歯科衛生士センターへの登録の声掛けをお願いしたい。

阪神淡路大震災時の健口管理だけでなく、平時でも活用できる「健口手帳」を令和3年に作成、兵庫県下10ヶ所・神戸市で5つの診療所にモデル的に配布している。

以上